

令和 7 年 10 月 1 日

令和 7 年度 学校関係者評価報告書

学校法人南京都学園 京都動物専門学校 学校関係者評価委員会は、「令和 6 年度 自己点検・評価報告書」に基づき、令和 7 年度の学校関係者評価を実施し、以下にこれを報告いたします。

開催日時：令和 7 年 9 月 17 日（水）10：30～12：00

場 所：京都動物専門学校 1 号館 2 階 203 教室

参加委員：中嶋慶喜（ドッグサロン・レーヴ代表）

中本敦史（学校法人南京都学園法人本部企画室室長）

平尾克英（京都福祉専門学校校長・専門学校部留学生担当課長）

教 職 員：木原茂弘（校長）、大塚浩也（副校長）、森谷航士（事務長）

常石誠（グルーミング学科主任）、竹田明子（愛玩動物看護学科主任）、

中井澄子（進路主任）、松本大輝（入試広報主任）

欠 席：吉田龍一郎（吉田家畜動物病院院長）、塩見 孔爾（南京都学園長補佐/南京都学園教育研究所所長）

評価項目と学校関係者評価・意見

評価項目	説明及び評価・意見	対応等
1 学校運営	○教育理念・目標について ブランディングにより選ばれる学校を 目標とする。 ○職業実践専門課程について 引き続き開催し、委員の意見を可能な 限り反映させる。 ○学校関係者評価委員会について 引き続き開催し、委員の意見を可能な 限り反映させる。	入試制度改革の効果が表れ はじめた。今後も分析・改善 し継続に努める。
2 教育活動 （カリキュラム編成）	○専修学校の単位制移行について 2026 年 4 月から、専修学校は単位制に 移行し、修了に必要な単位数は、修業 年限に応じて設定される。例えば 3 年 制の専門課程では 93 単位が必要とな る。大学への編入が容易になり、専修 学校の教育機会が拡大し、学生のキャ リアアップが促進されることが期待さ れているとの事である。	現状、本校は時間制である ため、単位制への移行によ る手続き（学則変更）を滞 りなく進めるよう努める。

3 学修成果 (教育指導) (資格)	○資格について 愛玩動物看護師（国家試験）の合格は100%であった。平均点も全国的にも高い水準であった。 ○教育指導について 専門学校特性上、年代・学歴・社会経験等によって、学生個々の能力に差が生じる。よって、カリキュラム履修・国家試験の全員合格への指導は簡単な事ではない。	学力差については、個々の能力に合わせた指導を行っている。 また、入試制度改革で可能な限り、“差”が無い環境を整えるよう努める。
4 生徒支援 (インターンシップ) (高等教育修学支援新制度)	○インターンシップについて グルーミング学科は、2年次に14日間のインターンシップを実施。愛玩動物看護学科は、動物看護総合実習として180時数の履修が必修である。 ○高等教育修学支援新制度について 令和8年度における更新確認申請は受理された。	インターンシップというのが、企業と生徒の両者にメリットがあるのが理想である。インターンシップに対する生徒への指導を、より一層考える必要がある。 対象校から外れると、生徒への支援に影響もあるが、募集にも大きな影響が考えられる。対象校として支援を受けられる環境を整えることに努める。要件を満たすよう努める。
5 教育環境 (施設設備) (ICT活用)	・消防、貯水槽の点検（問題なく終了） ・PCの購入 ・超音波画像診断装置を購入予定	
6 生徒の受入れ募集	○本校は「ブランディング」を基に、A0入試に選抜試験を導入し3年目となる。昨年度は伸び悩みましたが、今年度の募集は順調に伸びている。本校の方針が理解を得ているのではないかと推測する。 ○内部進学生が増加しており、高校進学時から本校進学を見据えた中学生がいる。	他校のA0入試に選抜試験はありませんが、ブランディング化に繋げるためにも必要だと思います。「実績のある学校」「安心して学べる学校」として選択して頂けるよう努めていく。 系列高校の募集活動にも活かしたい。学園全体に良い循環が生まれると考える。

7 社会貢献・地域貢献	学生が毎年グッズを製作し販売して得た利益で寄贈品を購入し京都動物愛護センターに寄贈する活動を今年度も実施できた。	イベントにもボランティア等で積極的に参加する予定がある。 人・地域・社会との繋がりを体現できる機会をつくる事を考える。
-------------	---	---

以上